

患者さんへの説明文書（ホームページ記載）

2013年6月1日～2015年3月31日の間に、肺結核を疑われて T-SPOT®TB と QFT®TB GOLD が検査された患者さんへ

課題名：肺結核を疑われた症例における T-SPOT®TB と QFT®TB GOLD の検討

背景：

肺結核の補助診断や接触者健診に、Interferon- γ releasing assay (IGRA) が用いられるようになりました。現在、IGRAには T-SPOT®TB と QFT®TB GOLD の2つの検査法があります。川崎学園の入職者には、入職時 QFT®TB GOLD が検査されています。しかし、どちらがより有用であるかは不明です。

目的：

肺結核が疑われた症例において T-SPOT®TB と QFT®TB GOLD のどちらの検査が有用であることを明らかにすること。

対象：

川崎医科大学附属川崎病院において、2013年6月1日～2015年3月31日までの間に、胸部画像上肺結核が疑われた症例で、T-SPOT®TB と QFT®TB GOLD が同時に測定された症例（約110例）を対象とします。

方法：

両者の陽性率と陽性症例の病態を検討しました。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では教員研究費のみを使用します。

この研究は、どこからも資金援助は受けておらず、実施にあたっては、事前に本学の利益相反委員会にて審査を受け、承認を得ており、学会発表や論文公表に際しても、資金に関して公表し、透明化を図ることとしています。

また、当院では、大日本住友製薬株式会社、第一三共株式会社、協和発酵キリン株式会社、大正富山薬品株式会社、キッセイ薬品工業株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、ノボルディスクファーマ株式会社、中外製薬株式会社、武田薬品工業株式会社、サノフィ株式会社、アステラス製薬株式会社、MSD株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社より、奨学寄付金の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。上記企業は本研究には関係ありません。

***本研究は呼吸器臨床においては非常に重要な研究であり、対象者については特定されることはありませんのでご心配なさらないでください。また、患者さんに身体的、経済的負担をかけることはありません。研究への参加を希望しない方や不明な点などある方は、お問い合わせください。**

【問い合わせ先】

総合内科学1 教授 沖本 二郎

電話：086-225-2111（内線3873）

メールアドレス：n.okimoto@med.kawasaki-m.ac.jp